

## 令和7年度

### 保育所の自己評価 実施報告書

社会福祉法人泉光会 いづみの杜

いづみ保育園

保育所保育指針では、[保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。]と明記されています。これに基づき、当園では今年度を振り返り、自己評価を実施いたしました。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育になるよう努力していきます。

#### ◆評価について◆

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価実施対象者は当園常勤職員(9名)</li><li>・評価表にそれぞれが採点し、意見・改善策を記入</li><li>・評価内容をまとめたものを報告書として提出</li></ul>
評価の算出方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・4段階で評価 A:大変良い B:良い C:一部検討を要する D:改善を要する</li><li>・上記4段階を数値化し、平均点を算出 A:4点 B:3点 C:2点 D:1点</li><li>・総合評価は平均点の小数点第二位以下を切り捨てし、4段階で評価 A:4~3.1点 B:3~2.1点 C:2~1.1点 D:1点以下</li></ul>

#### ◆保育所の自己評価結果と意見・改善策◆

##### ◎保育計画の編成と実践に関する評価

項目	内容	評価
保育目標について	(1) 保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	B
	(2) 目標は、施設や地域の特徴を生かしているか。	B
	(3) 目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	A
	(4) 目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。	B

項目	内容		評価
保育について	(1)	指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	A
	(2)	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	A
	(3)	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	A
	(4)	素材・用具を適切に活用しているか。	A
日時程	(1)	1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよいか。	A
行事について	(1)	行事の種類や実施回数は適切か。	A
	(2)	行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	A
	(3)	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	B
	(4)	計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	B
	(5)	保護者の願いや意見を取り入れているか。	A

#### 【評価点】

- ・乳児クラスでは月齢の差があるが、個々の成長発達に合わせた保育を意識して取り組んだ。
- ・地域支援事業の[わくわくひろば]では地域の子育て支援を兼ねた相談の場を設けることができたので、非常に良かったと思う。  
子ども達と遊びながら何気ない会話やコミュニティ作りに繋がり、リピーターが多いことも嬉しかった。
- ・今年度は不適切保育や子ども主体の保育を強く意識して、日々の保育をおこなってきた。
- ・毎月の誕生会やほけん集会等、子ども達が楽しんで参加している姿を見られるのは保育士として喜ばしい。
- ・保育参加・参観、お遊戯発表会等、子ども達の様子や園の人数にも合った行事だったと思う。
- ・保育参観やお遊戯発表会等は保護者の意見を取り入れていると思う。
- ・育児休業中の保護者も増えたが、可能な限りニーズを受け入れているように思う。
- ・子どもそれぞれの成長発達に合わせたねらいや目標を設定することができたと思う。

## 【改善点・来年度へ向けて】

- ・園だよりでは月のねらいを記載しているが、その他について立案者以外は月案等で確認しなければならず、わからないため、担当クラスだけでも共有できる場があると良い。

⇒来年度（令和8年度）は園児数が増えることが想定されるので、過去3年間は実施していなかった0～2歳児クラス対象の[乳児会議]と3～5歳児クラス対象の[幼児会議]を[職員会議]とは別に月1回開催することを検討する。その中で月案の内容等についてだけでなく、クラスの様子や支援が必要な園児について等も共有できるようにしたい。また、週日案については立案後に各クラスで共有する場を持つことを検討する。0～2歳児クラスについては各クラス複数担当のため、該当職員が各クラスでおこなう。3～5歳児クラスについては合同で過ごす機会もあるため、3クラス一緒に該当職員が集まっておこなう。週日案に関しては可能な限り週1回の開催を目指す。

- ・行事の時に正規とパートでペアを組めば、正規の負担が少し軽減されると思う。
- ・行事回数は多くなく、負担も少ないため助かっている。

⇒来年度（令和8年度）から正規（リーダー）とパート（サブ）のペアを実施する。担当については[園務分掌・係分担]で周知・共有する。

- ・昨今騒がれる嫌なニュースを見聞きする度に自身の言動を見つめ直すきっかけになった。子どもの気持ちに寄り添い、一緒に考えて行けるような温かい保育をしていきたい。

⇒来年度（令和8年度）以降も不適切保育や保護者支援についての研修を受講し、知識等を深められるよう、また、職員全体で認識を共有できるようにしていく。

- ・子どもそれぞれに合わせた支援や援助は、全体とのバランスが難しい。

⇒さまざまな成長発達を見せる子ども達のそれぞれに合う支援や援助は「何ができるか」「どうすれば良いか」等を先に述べた[職員会議][乳児会議][幼児会議]等において職員全体で話し合っ、共有し、実践していく。特別な支援が必要な園児には保護者とも話し、現状を共有して「何ができるか」等を具体化して、家庭と園とで共有して進めていく。

- ・避難訓練や行事の際の環境設定を早めをしたい。

⇒お遊戯発表会や保育参観（参加）等の大きな行事はもちろんだが、月1回の誕生会等についても立案段階からしっかりとおこない、早めに内容を共有する。

また、行事ごとに準備等も異なるため、それについてはわかりやすく明確に示す。

〈例〉行事前後でホールの使用制限はあるか、ないか。ある場合はその時間帯は？等。

行事で使用する玩具・遊具を共有する。通常保育に支障はないか？等。

2階保育室パーティションの開放はいつ、どの時間帯にするか？

また、その時の保育はどこで、どのような形でおこなうか？等。

- ・保護者参加型の行事があっても良い（特に乳児）。

⇒今年度（令和7年度）に関しては、乳児クラス（0・1歳児）において保護者参加型の行事がなかった。来年度（令和8年度）に関しては、年間行事予定を立てる際に検討する。

◎保育計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目		内容	評価
経営組織	分掌・体制	(1) 能率的・合理的な運営組織になっているか。	B
		(2) 職務内容が明確で協働できる体制になっているか。	A
		(3) 職員の配置は適材・適所か。	B
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。	B
	運営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	B
		(2) 職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	A
		(3) 打合せ回数、時間、内容は適切か。	B
	年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	A
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	A
		(3) 年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。	A
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	A
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	A
		(6) 評価、資料（諸記録）を集積しているか。	A
	保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	A
(2) 避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施しているか。		B	

		(3)	健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	A
		(4)	乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を行っているか。	B
研究・研修	園内研究	(1)	研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	B
		(2)	園内研究の計画・運営は適切か。	B
		(3)	研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。	B
		(4)	研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。	B
	研修	(1)	各種研究会、研修会、講習会への参加体制の充実を図っているか。	A
		(2)	各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	B
情報について	(1)	乳幼児や保護者に関する個人情報を通正に取り扱っているか。	A	
	(2)	各帳票等は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	A	
施設・設備	(1)	施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	B	
	(2)	玩具・用具等を活用しやすいように整理・保管しているか。	B	
	(3)	不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	B	
	(4)	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	A	
開かれた保育所づくり	施設間交流・連携	(1)	他施設等との年間交流計画は保育目標や課題に沿ったものになっているか。	B
		(2)	他施設等の幼児児童生徒と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。	C

開かれた保育所づくり	施設間交流・連携	(3)	指導者同士が打ち合わせや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。	C
		(4)	参観や保育・授業等に参加する等して、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。	C
		(5)	日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。	C
	家庭・地域との連携	(1)	参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。	B
		(2)	保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	B
		(3)	乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	C
		(4)	地域の行事に積極的に参加し、地域文化や生活に触れているか。	C
	子育て支援の推進	(1)	地域の子育てセンターとして、ホールや保育室等を開放しているか。	A
		(2)	地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。	A
		(3)	「子育てについて」等、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。	C
		(4)	職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。	A
		(5)	医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。	A
	情報の発信	(1)	園だより・ほけんだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	A
		(2)	行事や子育て支援事業を地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知しているか。	C
	外部評価	(1)	第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。	B
		(2)	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	B

## 【評価点】

- ・決して多くない職員数で休暇等を調整しているが、人員（シフト）調整は臨機応変におこなえていると思う。
- ・園内の掃除等を3班に分けておこなっているが、それぞれの班内で動ける（掃除できる）時間等を考慮し合えていてとても助かっている。
- ・0・1歳児クラス合同での散歩が増え、子ども同士でも異年齢を意識した関わりが増えた。定期的に幼児クラスも含めた全クラスでも散歩に出ており、お互いのクラスの大変さや注意すべき子どもの姿を共有できたように思う。  
会議で聞く子どもの姿は実際に一緒に過ごすことで理解が進むと思うので、様々な情報を共有する場としても散歩は有意義な時間のように思う。
- ・避難訓練では垂直訓練や火災時などのより具体的な方針・連絡係等が設けられ、より一層気を引き締めて臨むことができた。
- ・園内研修は多くは無いが、今年度のメンタルヘルスについての研修や不適切保育・食事援助についての動画視聴を通して学びを得ることができた。
- ・研修は時間の可能な限り参加をすることができた。
- ・設備等の劣化・破損については迅速に共有できており、また、可能な限りスピーディーに対応してもらっていると思う。
- ・園だより・ほけんだよりでは毎月、子ども達の様子等を丁寧に伝えていると思う。
- ・外階段下の掲示場所で、様々な情報をわかりやすく伝えていると思う。
- ・わくわくひろばにて、地域の方々との交流ができて良かった。
- ・足立区こども支援センター げんき等の外部機関と連携する機会が増えたことは良かった。

## 【改善点・来年度へ向けて】

- ・会議の伝達がうまくいっていない時があるため、会議録等を回覧する等して共有できると良い。  
⇒ 会議が開かれた時には必ず会議録を残している。今後はその回覧の仕方を見直す必要がある。  
また、必要に応じて口頭で伝える流れや会議開催の仕方等も検討する。
- ・交通安全指導は散歩の時のみになっている。  
⇒ 園外保育時の交通安全指導は今後も続けていく。  
また、特に3～5歳児クラスについては紙芝居や絵本等の視覚教材を活用し、保育活動内で交通安全指導に取り組むようにする。
- ・不審者対応訓練を実施していない。
- ・不審者対応について、実際に発生した時に行動できない可能性があるため、誰がどのようにおこなうか等マニュアルを確認することや実際に訓練することが必要だと思う。  
⇒ 地震や火事を想定した訓練は毎月おこなっている。不審者対応の訓練については足立区の指導検査でも指摘があったので、来年度（令和8年度）については実施について検討する。
- ・砂場用玩具が割れていたり、壊れていたりすることがあるため、定期的に点検等をすると良い。
- ・遊具や玩具の見直しが必要だと感じる。  
⇒ 砂場用玩具に限らず、室内の遊具・玩具についても散歩に出かける際や日々の消毒作業の際に点検するようにする。  
また、修理や修復が難しい場合は廃棄して、新しいものの購入についても検討する。

・避難訓練の家庭への啓発をおこなうことについては、注意を促す目的を持って具体的な訓練の内容を伝えていだけでも日々の連携や災害時のスムーズな避難につながるのではないかと思います。

⇒毎月実施している避難訓練については連絡帳や登降園時に訓練内容や子どもの様子を保護者と共有する。また、保護者へは年に1度の引き取り（引き渡し）訓練への参加を促し、事前に配付するお知らせ等で訓練のねらいや目的を職員（園）と共有し、実際に訓練に臨んでもらうように働きかけたい。

・今年度は年長児が不在で特に小学校との関わりが薄かったため、来年度以降に向けて準備していきたい。

⇒年に数回開催される[幼保小連携会議]へ出席しているが、年長児が不在のため、小学校との連携を実施できていない。来年度以降は連携実施に向けて準備する。

・他園の子ども達や地域の子どもの交流は大切だが、現在は園児以外の子どもが増えると困惑する在園児が多いように思う。

・他施設との交流はほとんどないが、散歩中に顔を合わせたり、公園で一緒になったりした際には挨拶をする等を心がけていきたい

⇒地域の方々との交流は[体験保育（わくわくひろば）]や[なつまつり]の時、主に上半期に集中している。年に数回開催される[体験保育]は0・1歳児限定の地域の方向けのイベントなので、地域の方との交流は定着してきていると思う。

[体験保育]は在園児も参加しているが、在園児の人見知り/場所見知りや開催時間がちょうど0歳児の午前睡の時間と合致するため、参加時間や参加の仕方等に配慮が必要なことも事実である。それらについては0・1歳児の担当と事前によく話をして、在園児も楽しく参加できるイベントになるようにしていきたい。

また、他施設との交流を実施するためには、例えば児童館や図書館の乳幼児向けのイベントに参加することが考えられるため、他施設の情報を収集することから始めることを目指す。

・体制は整っていると思うが、行事での突然の変更が多いので、全体でしっかりと把握できるともっと良くなると思う。

⇒「会議の伝達がうまくいっていない」と前途したが、行事についても同様のことが起きている。行事については、変更点が多かったり、内容にボリュームがあったりするので、園長をはじめ、全体での変更点や内容の報告・連絡・相談を適宜おこなうようにする。また、会議録をきちんと残し、会議に出ていない職員との共有も確実にこなう。

・研修の内容を保育にしっかりと還元していきたい。

・より有意義な保護者支援ができるように今後、研修に参加したい。

⇒昨年度から積極的にキャリアアップ研修を受講するようになっている。受講した際は報告書を提出してもらっているので、それを回覧等することでお互いの学びの刺激や助けになることを期待している。また、身につけた知識や経験を基にして日々の保育内容をより充実させたり、振り返ったりすることを目指す。

・期限内に帳票類を提出できるように時間の使い方等を見直したい。

⇒帳票類の記載は主に正規職員がおこなっている。午睡中や午睡明けからの午後の時間を帳票類等記載に充てるため、職員配置や合同保育のタイミング等を調整して対応する。

・外部への情報発信は少ないと思う

⇒[体験保育][園だより/ほけんだより]を外掲示板やホームページ等も活用して発信していく。

